



令和5年10月2日

10月 ちびっこの森通信 vol.77

☆☆今月のテーマ☆☆



- ・秋の紅葉といった自然の移り変わりに興味や関心を持つ
- ・戸外へ出て体を動かして大いに遊ぶ！



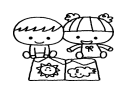
ひよこぐみ(0歳児)



新たに2人の仲間が加わって賑やかさがひと際、増してきました。水遊びから外遊びへとシフトした先月ですが、厳しい残暑が長く中なので暑さに慣れる程度のお散歩やテラスでの外気浴で徐行運転の状態でした。みんなはバギーで移動中に見るもの、聞くもの全てに興味関心を示し、それぞれが自然探索の時間を過ごしています。室内では、つかまり立ちや伝え歩きで大分、バランス感覚が身についたようで一人でそろっと立つ場面も見られるようになってきました。最初の一步を踏み出すのも秒読み段階かもしれません。みんなが午前中、活動的に過ごすおかげで、お腹も自然とすくことから手づかみでパクパクと気持ちのいい食べっぷりとなっています。これから気候も良くなってくれば、外遊びの楽しさも増していくことでしょからよく見守っていきたいと思います。



うさぎぐみ(1歳児)



真夏は水遊びで盛り上がった後は残暑が残る中、先月から外遊びへと切り替えていきました。外出の際、各自が身支度をしますが、靴下や靴をはじめ、排泄前後のズボンの着脱など一人ひとりが「自分で」合言葉のように自主的に取り組む姿が見られるようになってきました。例えば、靴下のつま先部分をつま先に合わせるように引き上げないといけません、これがなかなか難しいのでまずはつま先まで靴下を履かせておいて、靴下の端っこを持って引き上げるのを練習しています。靴やズボンもそれぞれ最後までできるようにして、最初の部分のコツを教えて最終的には自分で最初から最後までできるように仕向けようとしています。また園内ではお互いに名前を呼び合い、おもちゃで遊ぶ関係性も濃くなってきていますのでよく見守るようにしていきたいと思います。



ぱんだぐみ(2歳児)



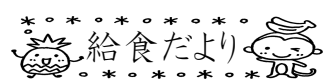
ムッとするような熱気や湿気が和らぎ、清々しい気候の下で外遊びへの切り替えが順調にすすむと思われた先月ですが、今夏の残暑はそう簡単には収まる気配がなかったので時間制限などした注意が必要な外遊びとなりました。そんな状況下でしたが、こどもたちは園横の脇道のマンションの植込みや隣接する畑に行き、バッタなどの虫探しやお花などの鑑賞をしたりと自然とのふれあいを楽しみました。室内では数十の組み合わせるピース数のジグソーパズルや絵合わせカードなどに集中し、ある時は一人で、またある時は一人で難しければ仲良しの子と一緒にって取り組む姿が見られました。園の生活リズムもしっかりと身体にしみ込み、毎朝の登園後やお帰りの際の準備は自分で考えて出来るようになってきました。これからも自主自立の動きを定着できるように見守っていきたいと思います。

～保育のポイント～

「のびのび教育」の大きな間違いについて

～「右脳」子育て 七田 真著～

こどもを比較し、他を蹴落とすことを是とする戦後の日本教育の反動からなのか、今は「学校に入るまでは教えるはいけない」や「早くから知的なことを教えると性格が歪み、自己中心のな子に育つ」といった見方が根強いようです。では、頭のいい子は誰もが性格が悪く、自己中心でしょうか。逆はどうでしょうか。そうでないことは現実の世界を見れば、一目瞭然です。とは言え、教育は時期がくるのを待ってするという考えがあり、その時期になればこどもは自然に物事に興味を持って覚えるようになる、という考え方があるのも事実です。その反証として、21年度の文科省が小1や小2の不登校は前年比35%増えたという調査報告があるように、(未就学児期に)ただ遊ばせるだけで就学期に臨むと教育環境への不適応が学校に馴染めないという悲しいスタートを切らざるを得ない場面に遭遇しないとも限りません。ですから、「時期がくるのを待つ」というのは避けたい考えとも言えますので未就学期に取り組むべきは知的な能力の発達と同時に「心」の育みも取り入れ、車の両輪のように取り組む必要があります。最近、「キレる子」という言葉を耳にしますが、その特徴は(1)気の向くまま好き放題で感情抑制が出来ない、(2)自分の行動を反省し責任を取ろうとしない、(3)行動を抑制されると怒り、抑制する人を憎む、や(4)弱い人にストレスのけ口を求め、となっています。これらを未就学期にバランスよく取り組むことで、のびのびと過ごしている就学期のスタートに繋げることが可能だと思いますのでご紹介した次第です。



給食だより



今夏は記録的な暑さから「実りの秋」の行方が少々、心配です。昨今は栽培技術の進で季節に関係なく野菜が食べられるようになったものの、「それぞれ適した土地や気候などの環境の下に育てられた「旬」の野菜や果物は季節外れのもの比べて味や風味も格段に違い、そのままでも美味しく食べられる」といったことから重宝がられます。また昔から「季節に伴い、体も変化すると考えられ、自然と体を調和させるために、その土地で採れる「旬」の食材を上手に取り入れるのが良く、それらは、手頃な価格で栄養価も旨みも高く、心身の健康を保つためにも重要」との位置づけとなっています。それらの特徴は(1)味が濃く美味しい、(2)栄養価が高い、(3)鮮度がよくて経済的である、そして(4)季節にあった身体的機能を補強する(免疫カアップ)などが挙げられます。これからの季節の代表的な野菜には食物繊維やカリウムのさつまいもがダイエット効果、βカロチンやビタミンCのかぼちゃが免疫カアップ、植物繊維やポリフェノールのごぼうが疲労回復、ビタミンB1や鉄分のほうれん草が貧血予防などの効果がそれぞれあります。他にも腸内環境を整えてくれるきのこ類など実りの秋の野菜で元気に過ごしていくようにしましょう。

♪今月の唄～♪

- ◇どんぐりころころ
- ◇かわいいかくれんぼ



～行事予定～

- ・身体測定…12日
- ・英語教室…13日
- ・体操教室…16日
- ・リズム教室…17日
- ・誕生会…23日
- ・避難訓練…26日
- ・ハロウィン行事…31日

